

今月9日、下大利小学校で大利小学校、下大利小学校、大利中学校の3校（大利中ブロック）による「いじめをなくそう子どもサミット」が行われました。「いじめ」について考え、協議することで自分自身の言動を再確認するとともに大利中ブロックで共通認識をもち、いじめを未然に防ぐという目的でこの活動が行われています。

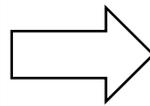
近年、インターネットを通じたメールやLINEなどでのいじめが大きな社会問題として取り上げられています。そこで、今回のテーマは「ネットでのいじめについて～なぜメールや手紙のやりとりで嫌な思いをする人がいるのだろうか～」とし、各学校の意見を出し合い、今後どのような行動をとるべきなのかについてのパネルディスカッション形式で行いました。写真はその様子です。



どの学校の子ども達からも素晴らしい意見が出されていました。以下はその一部です。

相手の顔が見えないから

- 普段言えないことや軽い発言をしてしまう。
- 伝えたいことと伝わったことが違う場合がある。
- 相手の気持ちが分からない。



- 受け取ったときに嫌な気持ちになったら確認をする。
- 送る前に一度確認する。
- 直接相手に話す。

講評での話でも言われていましたが、ほとんどの児童、生徒が「いじめは悪いことですか？いいことですか？」と聞かれると正しく判断をすることができます。それでもなお、許されないはずのいじめが起こるのはなぜでしょうか。このことを考えることが非常に重要だと思います。特に、今回の題材は携帯電話（スマートフォン）や手紙です。非常に便利な道具です。しかし、使い方によっては相手を傷つける道具であり、見えにくい形で行われます。便利さが必ずしも幸せにつながるとは限らないということです。

この活動をさらに発展させ、様々な形で発信し、学校、家庭、地域が一体となり、絶対にいじめを許さないという意識のもと、「思いやりあふれるいじめのない学校」へとしていきます。